

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和7年4月15日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立第三日野小学校

国語科

【定着状況についての概要】

○本校の平均正答率の結果を見ると、すべての観点別及び基礎・活用において全国平均並みか全国平均を上回っている。

【具体的な課題とその原因】

◇領域別に見ると、4・5年生は全ての領域で全国と品川区の平均正答率を上回っていた。しかし、第2学年と第6学年「情報の扱い方に関する事項」と第3学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国の平均正答率は上回っているものの、区の平均正答率を下回っている。

【情報の扱い方に関する】

- ・第2学年 校内平均正答率…77.5%
区平均正答率……78.9%
全国平均正答率…77.1%
- ・第6学年 校内平均正答率…85.8%
区平均正答率…87.0%
全国平均正答率…82.5%
- ・言葉の共通点や順序、考えとそれを支える根拠や事例を考え、正しい答えを選択する問題で、情報と情報の関係を結びつけることが、難しい傾向がある。

【言語の特徴や使い方に関する】

- ・第3学年 校内平均正答率…80.3%
区平均正答率……81.2%
全国平均正答率…79.5%
- ・片仮名、漢字の定着が不十分であったり、語彙の習得に課題が見られる。

【解決のための方策】

●「情報の扱い方に関する事項」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導の充実

「情報の扱い方に関する事項」においては、国語科だけでなく、全教科で資料を読み取る活動を発達段階に応じて取り入れる。書かれていることから、言葉の意味を正確に理解したり、着目すべきことが何か捉えられたりするようにしていく。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、漢字や片仮名の定着や語彙を増やすために、マイタイムなどを利用して計画的に習熟の時間を増やす。

【次年度の数値目標】

●全学年の「情報の扱い方に関する事項」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域を区や全国の平均正答率並みになることをめざす。

算数科

【定着状況についての概要】

○正答率の結果を見ると、ほぼ全学年が観点別及び基礎・活用において品川区や全国の平均を上回っている。

【得意な領域】

○「数と計算」の領域は、学年が高くなるにつれて品川区や全国の平均を大きく上回っていた。

2年	校内…86.7%	区内…86.4%	全国…85.6%
3年	校内…81.6%	区内…78.1%	全国…77.9%
4年	校内…80.1%	区内…75.4%	全国…71.9%
5年	校内…83.3%	区内…76.1%	全国…70.4%
6年	校内…80.9%	区内…69.6%	全国…60.8%

基本的な計算問題を解くことは比較的得意であると考えられる。

【具体的な課題とその原因】

○2年生の「図形」領域は、唯一品川区や全国の平均を下回っていた。

校内平均正答率……	80.9%
品川区平均正答率…	83.1%
全国平均正答率……	81.7%

○「図形」の領域の中でも、使われている色板の枚数で作られる形を選ぶ問題の正答率が低かった。色板を使う経験が少なく、色板を使うとどのような形ができるかどうか想像することが難しかったと考えられる。

【解決のための方策】

- 色板や画用紙などの具体物やデジタル教科書等の ICT 教材を活用して、どのように図形が形作られるか実感を伴って理解することができるような指導をしていくことが必要である。
- 実際に操作する場合には、十分に理解できていることを確認できるように指導助手と連携してチームで丁寧に指導できる場を設定する必要がある。

【次年度の数値目標】

○「図形」領域の平均正答率が 84%になることをめざす。

社会科

【定着状況についての概要】

○正答率の結果を見ると、4～6年生すべての学年で、すべての観点別及び基礎・活用において品川区や全国と同等か平均を上回っている。

【具体的な課題とその原因】

◇領域別では、4～6年生のいずれの学年も全ての領域で全国平均正答率を上回っていた。品川区の平均と比較しても上回る結果となり、以下の学年・領域のみ下回った。

4年生 「地域や市の様子」

校内平均正答率…77.0%
品川区平均正答率…78.9%
全国平均正答率…75.7%

【解決のための方策】

① 地図から読み取る力の伸長

3年生で初めて地図を読み取る学習をする。その際、地図から読み取る情報は、多種多様であることや方位・地図記号を確実に身につけることがこの領域の正答率を伸ばすことにつながる。

また、場所などの位置関係を方位で答えられるようにするなど、覚えるだけでなく、覚えた情報を地図の読み取りに生かす学習にも取り組んでいく必要がある。

② 学習を活用する力の育成

単元で学習したことを活用する力も伸ばしていく必要がある。

地図の読み取りを他教科や他の単元でも繰り返し行っていくことで学習の充実を図り、確実な力として身につけていく。

【次年度の数値目標】

- 「地域や市の様子」領域の平均正答率が80%になることを目指す。

理科

【定着状況についての概要】

○正答率の結果を見ると、全学年とも目標値を上回っており、全国と比較しても高値を示した。

【具体的な課題とその原因】

◇第5学年のカテゴリー正答率をみると、「物質・エネルギー」の領域においては全国や区と比較して高かった。「生命・地球」の領域においては全国や区の平均正答率と比較してやや高かった。

〈物・エ〉 校内平均正答率…59.6%
区平均正答率……56.4%
全国平均正答率… 52.9%

〈生・地〉 校内平均正答率…69.3%
区平均正答率……67.4%
全国平均正答率…65.7%

また、第4学年の観点別正答率では、「知識・技能」が全国の平均正答率を上回っていたものの、その差は0.1%と他の観点に比べて小さかった。

〈知識・技能〉 校内平均正答率…59.3%
全国平均正答率…59.2%

- ・標準スコアによる分析結果より、第6学年は、ともに前年度の校内平均正答率を上回った。この要因として感染症がやや収束することにより実験等の実体験の機会が増え、そこで習得すべき知識や技能を確認したり、定着させたりする時間が得られるようになったことが考えられる。

【解決のための方策】

- ① 「生命・地球」領域における観察・実験活動
「生命・地球」領域では、「物質・エネルギー」領域と比べ観察や実験回数が減ってしまう。その中でも観察・実験を確実にを行い、課題解決に向けて、学び合いの機会を増やししながら既習事項を生かして児童が考えて活動できるようにしていく。グループごとに考えた観察や実験方法で活動することで、より主体的に活動できるようにしていく。
- ② 考察・まとめの活動の充実による「知識・技能」の定着
各グループで行った観察や実験結果を基に、考察する時間を保障する。ノートやタブレットを活用し、自力で考察する力を付けることによって、知識・技能を身に着ける能力を上げていきたい。

【次年度の数値目標】

- 区の平均正答率より5%パーセント上回ることをめざす。

英語科

【定着状況についての概要】

○本校の平均正答率は、12 カテゴリー中 12 項目で全国平均を上回っている。
特に基礎・活用の「活用」領域は 11% 「書くこと」領域は 10%、「聞くこと」領域は 8 % 程度高い結果となっている。

【具体的な課題とその原因】

◆正答率度数分布を見ると、90%以上正答している児童は8割を超えているが、
(品川区平均と同程度)
60%～70%の正答率の児童が 2 割にとどまっている。(品川区平均は 4 割強)

◆全国平均は上回っているものの、正答率が低かった設問

*具体的に正答率が低かった設問

- ・ 例文を参考にしながら、自分の憧れの人を紹介する文を完成させている。
(目標値 85. % 正答率 89. 5%)
- ・ 例文を参考にしながら、自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。
(目標値 90% 正答率 89. 7%)
- ・ 身近で簡単な事柄についての対話を聞き、その内容を理解している。
(目標値 85. % 正答率 90. 9%)
- ・ 音声を聞き、活字体の「小文字 n」を正しく書く。(正答率 78. 1%)

誤答パターン⇒ 四線上に書く位置を間違えている。
読み取らなくてはいけない単語が読めていない。

◆全国・区共に平均は上回っているものの、「書くこと」の領域には課題が見られた。

本校平均：93. 5% (品川区平均：93. 6%)
全国平均：79. 4%

【解決のための方策】

○アルファベットの大文字、小文字を正しく覚え、四線上に正しく書けるようにする。

○授業の中で、身の回りの物、人、動作、職業などに関する言葉は、英単語と関連させて言えるような練習を取り入れていく。

【次年度の数値目標】

○8割の児童が80%以上正答できるようにする。